

# 細江中學校区



令和3年 1月

※「學」の文字には、その成り立ちから「多くの手で子供たちを大切に教育くんでいく」という思いが込められています。

新しい生活様式の中、各学校では子供たちの生き生きとした活動が展開されています。本年度は、新型コロナウイルス感染症への対策のため交流ができませんでした。そこで、今回は、各学校の取組についてお伝えします。

## 【「ホソナフェス」が開催されました！！ 細江中】



10月13日(火)、「地域は自分たちで変えられる！」のテーマのもと、「細江町をもっと魅力的な町にするために何ができるか」という課題について、探究的な学びの成果を3年生が発表する「ホソナフェス」が行われました。3部式で、第1部は各教室に分かれて行うフリップ形式発表、第2部は3年代表者のプレゼンテーション発表、第3部は、作家いぬじゅん氏によるふるさとキャリア教育講演会を行いました。

### 第1部

### フリップ形式発表会

### 第2部

### 代表プレゼンテーション発表会



### 第3部

### ふるさとキャリア教育講演会

第3部では、寸座駅を舞台とした「無人駅で君を待っている」の著者いぬじゅん氏を講師に招き、「『これまで』と『これから』」という演題で、ふるさとキャリア教育講演会を行いました。「自分で選んだ道は、正しかった道に後で変えていけばいい」と話していただきました。



## 【コミュニティ・スクール（CS）の導入 気賀小】

CSとは、変化の激しい社会を生き抜く子供を育成するために、国が導入を進めている施策の一つです。浜松市のCSは、学校運営に保護者・地域住民の声を積極的に生かし、地域と一体となって、学校運営の改善や児童生徒の教育活動の充実を図ることができる仕組みになっています。初年度である今年は、以下の2つのことを目的に取り組んでいます。

- ① 学校運営協議会の取組や学校運営に資する活動について、教職員、児童生徒、保護者、地域に周知すること。
- ② 気賀っ子応援団への登録を促すこと。

先日、気賀小の特色である一人一鉢栽培用の苗（パンジー）をポットに植え替えました。例年は職員で行っている作業ですが、今年は園芸ボランティアの方々（11名）が手伝っていただきました。お孫さんの話や、普段の生活等について、和気あいあいと談笑しながら活動しました。



## 【伝統を引き継ぐ和船活動 西気賀小】

本校は、浜名湖北部の細江湖畔に位置し、毎日素晴らしい景色を見ることができます。そして、運動場の先には、「潮見棧橋」があり、「和船」が停泊しています。昔の西気賀地区は、イグサや米が特産品でした。それを運ぶために使ったのがこの「和船」でした。「和船」と

は、櫓（ろ）と櫂（かい）を使って人力で進む船のことをいいます。その和船で4、5年生が細江湖を一周する本校の一大行事は、棧橋ができた平成6年から続いています。

和船活動は、6月から始まり10月初旬まで続きます。4、5年生の児童が、地域のボランティアの支援を得て、和船の歴史を学びながら、実際に細江湖に出て、漕ぎ方を教えていただいています。「それ、それ」と大きな掛け声をかけながら、櫓や櫂を力いっぱい漕いでいきます。この声が響くと地域の方も「元気をもらえる」と和船活動を応援してくださっています。今年度からは、三ヶ日青年の家の御協力により和船が新しくなり、「西宝丸」と名付けられました。西気賀小、地域の宝として、25年間引き継がれてきているこの活動は、本校ならではの活動として今後も引き継がれていきます。



### 【今年は特別な生き生き学校 伊目小】

例年7月に行っている本校の伝統行事である生き生き学校ですが、今年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、形を変えて行いました。

時期を夏から秋に変え、屋外での活動をメインに据えてウォークラリーを行うことになりました。コースの選定は自治会長が、草刈りなどのコースの整備は自治会の皆様が、ウォークラリーのゲームの企画は子供会の方が、子供たちの事前の指導と練習は教員が、当日のゲームの世話やグループの引率など

は保護者のボランティア、地域の有志の方々と職員が行いました。地域、学校、保護者が、コロナ禍で制約の多い子供たちのためにそれぞれができることを行い、この特別な行事を成功させることができました。

「伊目の子は、伊目の地域みんなで育てる」という考え方が具現化された行事でした。伊目の地域の力強さを再確認することができ、今年は特別な生き生き学校になりました。



### 【地域を交えての米作り 中川小】

中川小では、5年生児童が総合的な学習の時間に、米作りをしています。学校のすぐ北側の水田を地域の地主の方にお借りするとともに、主な活動の際には、地域の方、JA職員の皆様の指導、保護者ボランティアのみなさんにも御協力いただいて実施しています。

6月の田植えは、あいにくの雨の中でしたが、足の裏で泥土の感触を味わい、楽しみながら行いました。9月には、刈り取った稲を縛るための「すがい」を地域の方に教えていただきながら作りました。両手でわらをなうことに四苦八苦しながらも、手本を見せてもらったり、コツを教えてもらったりしながら作ることができました。そして、10月には、稲刈りをしました。刈った稲は、すがいで束ねました。予想以上の収穫があり、子供たちは驚いていました。精米した米は、中小体育の日（運動会）に5年生の子供たちが、参観に来た保護者の皆さんに販売したり、給食のときに全校で味わったりしました。

地域やJAの方、保護者の皆さんとともに、米作りの一連の活動を体験することを通して、働くことの意義、地域の良さや食文化などについて学ぶことができました。これからも中川小で大切にしていきたい活動の一つです。

